

“豪華客船”で夢の老後

姫路の街中に、豪華客船「出現」。足を踏み入れれば真っ赤なじゅうたん、船内風の真っ白なスーツに帽子姿のスタッフが出現してくれる。気分は世界一周クルーズといったところだが、実はここ、介護福祉施設。リハビリに励み、レクリエーションを楽しむ部屋の名は「イギリス」に「アタリヤ」。「ニューヨーク」。シャンデリアやステンドグラスに飾られた室内ではカシノも満喫できるものを入れよ。

(山路 進)

姫路の介護施設

める。訪れた時間利用者が満足を得る「デイサービス」も同じです。経営する医療法人社団「石橋内科」（同市広畑区正門通4）の石橋正子事務長（58）が理念を語る。

看護師や介護福祉士、調理師ら全職員が、施設の基本方針をまとめた「クレド（信条）」を重んじる。利用者の人格を尊重する▽理解しやすい言葉や方法で接する▽サービス内容を決めるのは利用者などどうたい、一流ホテル並みのもてなしを目指している。

現在、要受援や要介護の認定を受けた60〜90代の約40人が、姫路市内外から通う。到着した利用者はまず、玄関に置かれた専用の端末に触れる。タッチパネルに表示され



シャンデリアが下がる豪華な室内。船内風の制服をまとったスタッフが利用者各人体験を楽しむ

船員姿で一流おもてなし



な入浴や体操、ゲームなどの活動プログラムから好きなメニューを選択。「最先端のデジタル機器に触れるのも刺激になると井上康子所長（55）。次に向かうは「舌の里銀行」。利用者は、施設内で流通する通貨「アーム」の口座を持つ。アームでのリハビリは600アーム、体操は500アームなど、体を動かすたびに「お褒美」が口座に振り込まれる。

この「お褒美」でゲームを楽しむことができる。例えばルーレットは1ゲーム1000アーム。勝てるとアームが増え、負ければ減る。勝負の興奮や数々の傍ら、理学療法士は施設と変わらないと教えることだが、脳の動きに合わせて体をいい、4年前から通う人は、ピンクな明るい服で出掛けるようになり

「クルーズ船に乗るときはおしゃれもしたいとね」とほほえんだ。



豪華客船のような外観が街中で目を引く「デイサービス舌の里I・II」=いずれも姫路市広畑区東新町1。（撮影・大森 武）

特別通貨でカジノも満喫

千区取上は「夢のような場所です。週4日のデイサービス利用時には、ピンクな明るい服で出掛けるようになり